

人権作文に学ぶ



▲ホームページでスマイルフェスタ
八女2023の様子を動画や画像
でご覧いただけます。

12月9日(土)、おりなす八女で「スマイルフェスタ八女2023」を開催しました。そこで発表いただいた児童生徒による人権作文より、今回は吉田ゆめさん(上妻小学校6年生)の一遍を紹介いたします。多くの人にとって身近な存在となったSNSとの向き合い方について、一緒に考えてみましょう。

本人写真

▲吉田ゆめさん(上妻小学校6年)

▶スマイルフェスタ八女2023で作文を発表する児童生徒(※田中さんの作文は広報八女1月号で紹介しています)

「ひぼう中傷を受けた人の気持ち」

みなさんも、わたしのお母さんの気持ちを知ってください。

お母さんは、家で飼っている三匹の犬の生活の様子をSNSに投稿しています。

「今日は、ハイタッチできたところが撮れたよ。」

「今日投稿した動画、面白いからゆめちゃんも見てみてね。」

と投稿を楽しんでいます。投稿に対するコメントは、家族で読んでうれしくなるようなものがほとんどです。そのようなコメントに、お母さんは、い

本人写真

▲田中佑空さん(立花中学校3年)

つも喜んで返信しています。

幸せをいっぱい感じるSNSですが、ときに、お母さんを暗い気持ちにさせます。投稿に対する一部のアンチコメントです。

「そんな怖い犬、なぜ飼うのか分からない。」と大好きな犬のまちがった見方をされたり、「その育て方はまちがっている。」

と、私たち家族の育て方について、十分に理解をしないまま決めつけられたりするようなものがあります。

普段は怒らないお母さんですが、



なぜそんなことをするのだろう。と怒ったり、悲しんだりしています。そして、

「たとえ一つの心ないコメントでも、わたしたちを幸せにしてくれるコメントさえも忘れさせてしまう力があるよ。いくらいつもポジティブなママでも、もし、たくさんひぼう中傷を受けたら、絶対心が壊れてしまうよ。」と話してくれました。そして、次のように続けました。

「包丁と一緒に正しい使い方をすれば、おいしい料理を作るための道具になる。使い方をまちがえば人を殺す道具にもなるよね。SNSもそれと同じだと思う。だから、必ずコメントやメッセージを見る相手が存在すること考えないといけないよ。顔が見えないからと言って、何でも言っているわけではないよね。」

私は、お母さんの話を聞くまで、

相手が嫌がるようなコメントさえしなければいいと思っていました。しかし、大切なことは、自分の言葉によって相手がどんな気持ちになるかをよく考えることでした。

そして、お母さんの気持ちを知ったことで、ひぼう中傷を受けた人がどんな気持ちになって、どのような行動をとってしまうのか実感することができました。SNSでの言葉は、包丁と同じように凶器になる可能性があることも考えておかねばなりません。ニュースでも、芸能人へのひぼう中傷に関する報道をよく見ます。ひぼう中傷が原因で、自ら命を絶ってしまう人だっています。そのため、画面の奥にいる相手の気持ちを想像しながらSNSと向き合っていきたいと思います。

人を幸せにする力も、取り返しのつかないほど傷つけてしまう力も持っているSNS。私たちが発する言葉は、いつもその意図が正しく伝わるとは限りません。時には自分にとって「正しいこと」が、誰かの居場所を奪ってしまうことさえあります。顔が見えないやり取りであればなおさら慎重に、自分の発言に責任を持ち、受け取った相手の気持ちに思いを馳せることが大切ではないでしょうか。